

Kitagawa K, et al., Association between carotid stenosis or lacunar infarction and incident dementia in patients with vascular risk factors. Eur J Neurol. 2014 Aug 27. doi: 10.1111/ene.12553. [Epub ahead of print]

認知症発症への血管リスク因子、脳血管病変の関与が注目されている。本研究では血管リスク因子を有する 600 名を対象として、脳大血管病変として頸動脈狭窄 脳小血管病変としてラクナ梗塞を評価し、認知症発症の有無を 8 年間追跡調査した。8 年間に認知症は 57 例新規発症した。頸動脈狭窄、ラクナ梗塞の存在は共に将来の認知症発症リスクを高めていた(下図)。頸動脈狭窄と認知症発症との関連は年齢、性別で補正すると有意性は消失したが、ラクナ梗塞と認知症発症との関連は、年齢、性別、危険因子、教育歴、ApoE4 で補正しても有意であった。認知症発症には脳大血管病変より脳小血管病変の存在の方が寄与が大きいと考えられた。

脳小血管病変は脳大血管病変より認知症発症と密接に関連している？

